

日本こころの安全とケア学会第9回学術集会・総会 オンライン開催

ケアの質を 保証する とは ということか

◆開催概要・開催方法

大会名 日本こころの安全とケア学会 第9回学術集会

会 期 2026年12月19日(土)・20日(日)

オンデマンド配信期間:2027年1月11日(月)まで

会 場 オンライン

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 信州大学医学部地域保健推進センター3階多目的講義室より配信

テーマ ケアの質を保証するとはということか

大会長 下里 誠二

信州大学学術研究院保健学系 教授

◆参加申し込み

https://app.payvent.net/embedded_forms/show/6a6ff60ec6cb7d1e4ea8cacd

参加費

学会員 3,300 円

非会員 医療・福祉職 5,500 円

非会員 一般, 学生 1,650 円

お問い合わせ先

学術集会の Zoom ID の連絡など、e-mail が届かない方

信州大学学術研究院 保健学系 下里誠二／木下愛未

E-mail: sshimos@shinshu-u.ac.jp / akinoshi@shinshu-u.ac.jp

入金に関する事など、上記以外の学術集会に関する事について

日本こころの安全とケア学会事務局

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津 160 (担当:山崎京子)

Email: jascmh.cvppp@gmail.com

<https://www.jascmh.com/>

◆プログラム・日程

基調講演

CVPPP の技能とその質保証

下里 誠二(信州大学医学部保健学科看護学専攻 教授)

教育講演

1) 接近の技法―「私」が相手の世界に現れるとき―

近藤伸介(東京都立松沢病院 副院長)

2) 子どもから大人への発達精神医学:神経発達症の理解と支援

本田秀夫(信州大学 子どものこころ発達医学教室 教授)

3) ギャンブル障害回復トレーニングプログラム SAT-G とプログラムの質保証

小原圭司(大阪商業大学 各員教授、社会医療法人正光会松ヶ丘病院 名誉院長)

4) 訪問看護とトラウマインフォームドケア ―経営者として、実践家として

田邊友也(訪問看護ステーションいしずえ 代表理事)

特別講演

当事者の安心と納得をもたらすケア・かかわりをめざして

松平隆史(精神障害当事者会ひびき 代表世話人)

特別企画

技能の伝達と伝承、対話的な組織の醸成

高木 俊介(たかぎクリニック 院長)

竹端 寛(兵庫県立大学環境人間学部 環境人間学科 教授)

下里 誠二(信州大学医学部保健学科看護学専攻 教授)

鈴木 庸(合同出版 編集部)

特別対談

対話の哲学

三木那由他(大阪大学大学院人文学研究科 講師)

朱 喜哲(大阪大学社会技術共創センター 招聘准教授)

ご挨拶

一般社団法人日本こころの安全とケア学会の学術集会も9回目を迎えることとなりました。

主に精神科医療の中で、安心と安全を創るための学術的な探求を目的に設立された本学会では、おもに精神科医療でのクライシス状況における包括的暴力防止プログラム(Comprehensive Violence Prevention and Protection Program : CVPPP)を事業として行っております。第1回から、「The first step！ 伝承と発展」「原点回帰、そして飛翔」「今あらためて、CVPPPの存在意義を問うーみんなのこころの安全を守るためにー」「対話から生まれるケアーCVPPPが目指す当事者の安心」「共同する CVPPP」「CVPPPと虐待防止」「CVPPPと権利擁護」「CVPPPとことばがつなぐケア」とその時々でCVPPPが議論されるべき内容をテーマとして取り上げてきました。特にコロナ禍以降は当事者との共同性、そして虐待防止や権利擁護といった人の尊厳にかかわるテーマへ、そして第8回では、CVPPPが大切にすべきことば、について取り上げCVPPPの技術としての質を高めるための議論を進めてきました。これらは、支援者が持つ力によっておこる非対称性の中でCVPPPが支援者や当事者といったコミュニティを超えて「人の持つ尊厳」を守るケアを提供する技術を作るためのものでした。

そして2025年、CVPPPはこれらの知を結集し、新たなプログラムを開始しました。このプログラムでは「習得した誰もが同じ技術を持てる」「伝えるものが誰でも同じ伝え方ができる」といったことを重視しています。つまり「ケアの質を維持すると同時にその均質性を保つ」ことが求められています。

そこで第9回となる今年は「ケアの質を保証するとはどういうことか」をテーマにしました。ケアの質を高めるとはどういうことか、そしてケアという言葉にしにくいものをいかにして、言語化し、つないでいくかを考える機会としたいと思います。

COVID-19の影響もあって、第3回にオンライン開催となりましたが、学術交流を手軽に、広い地域の方々と行うという目的と、オンライン開催という方法の相性の良さから第8回までオンライン開催のまま行ってまいりました。これは、遠方からも参加しやすく、また運営費を充実した講演内容のために使うことができるという点で優れたものであります。第7回からは信州大学内の配信会場での聴講も可能な形で、オンライン開催としており、さらに学術交流の場として開放しています。本年度もオンライン開催という形式はそのままに、配信会場での聴講も可能としています。

気楽にオンラインで、また旅行がてら松本の会場へ、ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。

令和8年8月吉日

第9回 日本こころの安全とケア学会学術集会・総会 会長

下里 誠二

実行委員会委員長

木下 愛未

(信州大学学術研究院 保健学系)